パフォーマンス評価による教科学習観の変化
―「覚える」社会科観から「説明する」社会科観へ―

吉田　英文（東京都立稔ヶ丘高等学校）

１．研究の目的と方法
（１）研究の概要

パフォーマンス評価は、子どもたちにどのような影響を与えるのか[1]。本研究は、パフォーマンス評価が子どもたちの学習観や学習方略に与える影響を、質問紙調査の量的分析や自由記述の質的分析を通して明らかにするものである。ここでいうパフォーマンス評価とは、近年、教育評価研究で注目されている「リアルな文脈の中で知識やスキルを応用・総合しつつ使いこなすことを求めるような課題」[2] を与え評価することをさす。パフォーマンス評価は、よく自動車教習所の路上検定に例えられることがある。それは、学科で学んだ知識や教習所内の実技を総合して、現実の文脈で「自動車を運転する力」を試すからである。

パフォーマンス評価は子どもたちのもつ社会科の学習観や学習方略を変化させる作用がある。結論を先取りすれば、子どもたちの社会科学習観は、パフォーマンス評価を通して「覚える」というものから、「説明する」ものへと変化することを明らかにする。そして、学習方略も「量」より「方法」を重視し、ただ書いて覚えるという単純なものから関連付けたり内容をまとめたりする方略をとるようになることを指摘する。

（２）研究の背景（研究の必要性）

なぜ、このような研究をすることになったのか。そのきっかけは、連携協力校の子どもたちが予想以上に社会科を「覚える」教科と認識していたことにある。２年次のある時、子どもたちに「社会科をたとえるなら（例：社会科は“はさみ”のようだ。なぜなら、社会を切り取るものだから）」として社会科の比喩（以下、社会科メタファー）などを自由記述で書いてもらった。そうしたところ、「甘い果実のようだ。知れば知るほど楽しくなる」という前向きな意見がある一方で「紙のようだ。うつしておぼえるから」「ハンマーとくぎ。なぜならやっと覚えたと思うとどんどん次にいくから」「時間（時計）。なぜなら、時間（時計）の流れ的なものを覚える教科だから」と、個人差はあるが全体として「覚える」というイメージを強くもっていることに驚かされた[3]。「社会科は『暗記科目』だと思いますか」とたずねた項目でも、74%が“はい”もしくは“どちらかといえば「はい」”と答えている[4]。

では、なぜ社会科は「暗記」ではいけないのか。それは、社会科は社会事象を「覚える」という教科ではないからである。社会科は歴史的にデモクラシー（民主主義）の教育としての役割を担い[5]、社会科の学力とは、社会を説明し判断する力であるとされる[6]。もちろん、社会を説明し判断するには知識が必要となるだろう。しかし、知識は目的として「覚える」ものではなく、「説明」するうえでの手段になるものである。認知心理学においても、知識は「道具」とされる[7]。

（3）アプローチの方法

社会科が「暗記科目」という批判は古くからある[8]。そのため、その克服を図る実践や研究も数多くなされてきた。たとえば、中学校では安井俊夫氏の「共感」から社会に迫る授業[9]、高等学校では加藤公明氏の「討論授業」[10]などの提案がある。これらは主に授業の「方法」に関する改善の試みと言えるだろう[11]。

しかし、本研究では「方法」ではなく「評価」に着目した。それは、学習観は「評価」によって規定されるからである。社会科では授業方法はさまざまな工夫がなされているが、評価はペーパーテスト中心のままである[12]。テストの形式が学習者の学習方略使用に影響を与えるという教育心理学の研究成果[13]からも、評価の改善が必要であると言えるだろう。『中学校学習指導要領解説 総則編』においても思考力・判断力・表現力育成のために評価の工夫が必要であると指摘されている[14]。

近年、教育評価研究では「真正の評価（authentic assessment）」論が注目されている。この「真正の評価」論とは、その代表的論者であるウィギンズの説明によれば「大人が仕事の場や市民生活の場、個人的な生活の場で『試されている』、その文脈を模写したりシミュレーションしたり」しつつ評価を行うべきという考え方である[15]。そして「真正の評価」論にもとづき、具体的な方法として提案されているのが、前述のパフォーマンス評価である。この「実社会」「生活」「リアルな課題」を強調する評価論は、アメリカの標準テストへの批判の文脈から提起されたもので、社会科における「覚える」という学習観を変化させるのに示唆的である。

学習観については、認知心理学の領域で研究がなされている。市川伸一氏は子どもたちが、しばしば「結果主義」（思考過程より答えの正否を重視）、「暗記主義」（答えを出す手続きより憶えこむことを重視）、「物量主義」（工夫をせずに学習時間や練習量だけを重視）の学習観を持っていることを指摘している。そして、学習の考え方は、学習の方法（方略）と一体化しているという[16]。くわえて、学習観を測定する質問項目を紹介している。学習方略に関しても理科教育学の鈴木誠氏などが質問紙を開発している[17]。これら先行研究の知見から、学習観や学習方略の測定には関しては質問紙調査の結果を活用することが妥当であると考えられる。

そこで本研究では、中学校社会科の授業実践にパフォーマンス評価を取り入れ、それによる学習観や学習方略の変化を質問紙調査によって分析を加えるというアプローチをとることとしたい。

2．研究の経過

（1）授業実践の概要

大学院２年次は、連携協力校において中学校社会科地理的分野の授業を継続して行う機会をいただいた（週１時間４クラス）。その中でパフォーマンス評価を実践することができた。今回紹介するのは、人口の単元[18]でおこなった「過疎」に対する意見文型パフォーマンス課題の実践である。（パフォーマンス評価は前述のとおりであるが、西岡氏はカリキュラムの「逆向き設計」論の中に位置付けており、具体的な手順等は西岡氏の文献を参照されたい。これまでの社会科におけるレポート評価と異なる点は、評価基準として間主観的なルーブリックを作成することにある[19]。）以下、実施した単元の概要を紹介する。

単元名　社会にとって人口の変化とは何か

単元の目標　社会を「人口」という視点から考察できるようにする。

単元の構成　本単元末のパフォーマンス課題では、過疎について What（何が問題か）、Why（なぜそのような問題が起きるのか）、How to（どうすべきか、解決策）の３つの問いに沿って意見文を書くという課題を設定した。そのため、単元の各授業もその問いによって実践することをこころがけた。各授業は以下のように展開した。（パフォーマンス評価は単元末の１時間を用いた。）

時数	実施週	テーマ	内容・目標
1	2009 年 10 月下旬	20 世紀は人口爆発の時代だ！ （教科書 P. 150-151 世界の人口分布と変化）	人口を見る５つの視点（①量、②人口分布、③人口密度、 ④年齢構成、⑤食料と人口）
2	11 月初旬	日本の人口の過去・現在・未来 （教科書 P. 152-153 日本の人口の変化と特色）	日本の人口増減の歴史、自然増減と社会増減、少子高齢化社会、労働力不足の問題
3	11 月上旬	均等ではない日本の人口分布 （教科書 P. 154-155 日本の人口分布）	日本の人口分布の歴史、三大都市圏、東京一極集中、統計資料と白地図による作業
4	11 月中旬	過疎地域の未来を考える① （教科書 P. 158-159 過疎地域の生活）	What：過疎の何が問題か Why：なぜ過疎が起きるのか How to：過疎法、支援員制度
5	11 月下旬	過疎地域の未来を考える② （教科書 P. 158-159 過疎地域の生活）	How to：産業をおこす、 特産物をアピール、 積極的な引っ越し策など
6	12 月上旬	過疎地域の未来を考える③ （教科書 P. 158-159 過疎地域の生活）	なぜ文章を書く力が求められるのか、パフォーマンス課題の意見文の執筆

（教科書は帝国書院『中学生の地理』を使用）

質問紙調査は、市川伸一氏の尺度（以下、市川尺度）と鈴木誠氏の尺度（以下、鈴木尺度）を２度ずつ実施した。市川尺度は上記の単元の前後で実施しているが、鈴木尺度はもともと他の研究関心から実施したもので、7 月と 11 月に実施している。単元の前後での調査というわけではないが、生徒の変化を考察するために補助的に用いることとした。

また市川尺度では自由記述の項目もいくつか加えて調査を行った。単元の事前調査では「①社会科メタファー」「②社会科のイメージ」「③なぜ社会科を学ぶと思いますか」「④あなたの社会科学習法を教えてください」、事後調査では「⑤意見文を書く課題（パフォーマンス課題）をやってみてどうでしたか」「⑥意見文を書く課題をやってみて社会科のイメージは変わりましたか？（変わった、変わらないの）理由はなんですか」をたずねている。あるクラスの回答を一覧にしたものが、表１である（実践したクラスは４クラスだが、紙

幅の都合上１クラスのみを提示する。）

表１　自由記述アンケートの結果（一部）

	①社会科をたとえるなら(例:社会科は"はさみ"のようだ。なぜなら、社会を切り取るものだから)	②社会科のイメージ(社会科に対するイメージを文章で書いてください。プラスでもマイナスでもいいです。)	③なぜ社会科を学ぶと思いますか？(社会科を学ぶ意味について自分なりの考えを書いてください。)	④あなたの社会科学習法(勉強法)を教えてください。(こち亀の両さんみたいに教科書に落書きして覚える、ただひたすらお経のように書き写す、等)	⑤意見文を書く課題(パフォーマンス課題)をやってみてどうでしたか？(感想)	⑥意見文を書く課題をやってみて社会科のイメージは変わりましたか？(変わった、変わらない の)理由はなんですか？
01	時間(時計)。なぜなら、時間(時代)の流れが多くのを覚える教科だから。	暗記が大変。覚えることが多い。	今までのことや今の状態などを知って、これからに役立てるため。	紙などにくり返して書いて覚える。	前にも1回やった事はあるけど、やっぱり難しかったです。	変わった。 理由→意見文をかくのは国語だけかと思っていたから。
02		過去を知ったりするのはおもしろいけど勉強は・・・。	世に出て困らないため	書いて覚える	むずかしかった	変わらなかった。やっぱりむずかしいから
03	勉強	むずかしい	自分のしょうらいのため	ひたすらおぼえる	考えれば考えるほど、自分でもわからないくらいいろんな意見が出てきたので不思議なかんじがした。やっぱり考えることは、とてもいい事だと知った。テスト勉強も考えてやりたいと思う。	自分でまだまだ少しかわったと思う。社会科もいろんな事を考えてやれば、たくさんの意見や考えがでてくると思ったので、社会がりしたのしくなったようにかんじました。地図地域についてよく考えたら、いろんな事がでました。
04	社会科はジグソーパズルのようだ。なぜならいろいろな事がつながるからだ。	暗記がきい教科。	常識として知っておくべきことを学ぶため。	なんども書く。	意見文を短かく書くということが難しかった。	変わった。1つの課題について何通りもの解決策があるから。
05		とにかく暗記でおぼえる教科	しょうらいにやくだつかもしれないから。		最初はめんどくさいなと思ったけど書いているうちに楽しくなってきた。	少し変わった。自分の意見を出したりすることもあるのかなと思った。
06		つまんない。おぼえるのが大変	将来 社会をひっぱっていける存在になれるようにするため	ノートに漢字を書く、ちゃんと覚えてるかテストする。	1枚でまとめるのは難しかった。自分なりの考えをまとめるのが大変だった。	社会科は暗記すればいいと思っていたけど、暗記しただけでは、実きいに使って説明できないと思うようになった。
07	社会科は、小説読みたいです。なぜなら難かしいし、いっぱい勉強しなきゃならないから	やっぱ、難しい。	世界を知るため	ひたすら勉強	自分の意見を主張するのが難かしく、説明力なども不十分だったので、今度からは誰が読んでも納得するような意見にしたいです。	少し変わりました。理由は、社会は暗記するものだと思っていたけれど、深く考えると、意見文をかくことができるし、原因などつきとめられて少し楽しいと思ったからです。
08		世界のことをよく知れる良い授業だと思います。	大人になったとき、仕事などで役立つと思うから。	自分なりにキレイにまとめて見やすくして覚えています。これなら書いて覚えられて見て覚えられて一石二鳥！	自分の意見がスラスラと書けず、とても難しかったです。	少し変わった。人の意見を読むだけでなく、実際に自分で考えてみて、社会科(特に地理)の見方(→イメージ)が変わりました。
09	整理など難しい小説。読むのも書くのも理解するのも難しい。	暗記ものがたくさんあって よく分からないものを理解しなきゃいけない感じ。テストとか見ても「なんだよこれー」となるのが多い。	大人になって応用力とか常識とか一番学ぶのが社会だと思う。	川名先生の歴史のときはとにかく感じと場所、年号を覚えようと頑張った。地理は、特産物など有名なものが何県にあるなど覚えるようにしている。	いろいろと難しいことばかりで大変だった。考えていることがうまく説明できなかったりして理解しにくい文だと思います。これをどんなふうに理解しやすい文にするかが私の課題だと思います。	すごしよくなった…と思います。意見文を書くのも社会科の1つなんだな…と。ただ難しいのは変わらず苦労してます。
10					とくに、何もない	変わらない。理由もない
11		暗記するものが多くて大変。	将来につながるから。	単語などを練習したりする。	自分の考えをていねいな言葉で相手に伝えるのは難しい事だと思った。	少し変わったと思う。自分の意見をはなせるようにする社会科の授業はいいと思う。
12	たくさんのプリントのようだ。なぜなら、いろいろな物事を重ねていくから。	すこしめんどくさい	社会に出たときにひつようになるから	日による	いろいろ書きたいのに一定の量にちぢめるのがむずかしい。	変わった。 意見文を書くのは大変だしめんどう。
13		世の中を見つめ直す教科。世の中について理解する教科	社会のしくみや、国の歴史等を知る必要があるから	ひまがあったら暗記する	自分の考えを書くのは少し難しくてむずかしいし、うまくまとまらず、大変でした。自分の考えを人に伝えるのは将来必要な事なので、この授業はよかったと思います。	少し変わりました。社会は暗記だと思っていたので、この課題のような社会は初めてだったので、社会のイメージが少し変わりました。
14	勝者の部屋。戦争で勝った国が負けた国の歴史を壁で固めているから。	好きだけど、大東亜戦争の中国やアメリカの戦が苦しいので(南京大虐殺、強制収容、(原爆投など)少し嫌になりました。	自分の歴史を知ることで、自分の国に誇りをもつこと。	好きな事から。	この間の「東京裁判」と同じ内容にならないように書く事が難しかった。	変わった。自分の考えを言うだけでなく、それを説明する事もしたから。
15	字をかくことが多い？	暗記するのが多い	チームワークを作る	分からない	よんだり、まるつけだする量が多いと思います。	変わった。国語みたいだと思った。
16		金	社会に出るから	頑張	いろんな意見があると思った。	変わったと思う。
17		難しい	大人になった時のため		自分の意見をもつことや書くことは難しいと思った。	変わった。暗記をしたりすることをやっていたが文を書く方がいいということがわかったから。
18					少しむずかしいけど勉強になる	変わった。→自分の考えを見てみて。
19	吉田先生	＋	大人になるために	できるに	とてもおもしろいと思う。	少し変わった。書く事によっていろいろな事がわかった。
20	社会科は"ペンペ"のようだ。なぜなら歴史のように過去のことになっても、どこかに書かれていたら残るものだから	社会科には とても難しいイメージがあります。地図などを作ったりするので、時を使うイメージもあります。	多分、これからのことを考えるために？自分のためになるから・・・？	黒板に書かれていることだけをノートに書くのではなく、先生が発した言葉をできるだけ書くようにしてる。	あまり文を書くのは好きじゃないけど、でも、自分の意見を好きなだけかけるので、やってうよかったと思います。	変わった。社会科は難しいというイメージがありました。あんまりかもしなきゃいけないし、めんどくさかった。けど、意見文を書いてやっこうは楽しく感じました。
21	社会科は本のようだ。なぜならはストーリーがあるから。	ねんごうをおぼえて、あんまりなくちゃいけないかんじ。むずかしい用語が多い。	今までのことを知るため。	かんじノートに書く、声に出してあんき。よむ。	意見文を書くのは、あまり好きじゃないから難だった。だけど、やっていくうちに自分の考えを無意に書くものだから、すらすら書けた。書き慣れたら、達成感がある。	変わった。社会科は、文を書いたり読んだりするイメージがなく、暗記の方が近いと思っていたから。
22		おぼえることがたくさんあるので、あまり好きじゃない。	色々なことをしるため。	ただかく。	いくつも、対策として見ぎもうな方法があったけど、実際に、どれが一番通っているのかわからなかった。	変わらない。意見を書いても社会科は社会科だから。
23	自分自身のようだ。なぜなら、日々変化していく教科だから。(自分も日々成長。)歴史も始まり		将来のため。	歴史・・・年表を丸暗記(流れをつかむ)地理・・地図に書き込んで覚える。	自分の意見を道筋立てて、説明できず、大変勉強になった！！	変わった。その県の良い所を、自分で見つけ、自分で伝えるということが、とてもおもしろかった。社会科は暗記じゃない！！考える科目だ！と思う。
24		むずかしい おぼえるのがたくさんある。	社会にでたときのため	教科書をよむ	難しいけど、書いているときの頭のプラス面やマイナス面がわかって、おもしろいと思った。	
25						
26		広がいろいろな分野に広げていくことができるから、おもしろい	社会に出て困らないように	地理オネアをもう一回見て、コンセプトマップをまた作る	自分の考えを文章で伝えるのは大変だった。	前回の意見文を書いた時と比べるといろいろなことを考えられるようになったと思うから、変わったと思う。
27		パッと見 難しそう。でも理解すると楽しい。	自分の生まれる前の事をちゃんと知らないといけないから。それによって未来のためになる気がする。	ノートをよく読んで、わからない所を教科書を読んで理解する。	自分の意見を言う力がついたと思う。すこし楽しかった	変わらない。前から同じイメージを持っているから。課題をやってみて、少しだけ楽しいとは感じた。
28		社会科は覚えるだけな感じ	将来、道に迷ったりしたらやくにたつから	シートでかくして覚えているかどうかを確認する	島根県の対策を考えるのはむずかしかったけど、自分の意見をかけたのでよかった。	変わった。社会は暗記だけじゃないと思った。
29	なし	難しいのとつまらないものがある。	大人になった時に役立つから。	よむ！！	どうすれば問題が解決するのかを考えるのが難しかった。	変わらない。前にやったようなのをやった気がする。
30	吉田先生	歴史は物語を覚えるようなイメージ 地理はわかりません	テストのため	教科書を読むだけです	How toを自分で考え、その問題点を探したりするのが難しかった	変わった。自分の意見を主張したりすることと、文化やその土地の特ちょうを考えたりするのに分かれると思った。
31	覚えるものだ	世界のことなど	よく分からない	暗記する、ただひたすら暗記	意見をくわしく書くのが難しい	変わったと思う。理由、社会科は覚えるだけだと思っていたから。

（2）パフォーマンス課題

パフォーマンス課題とは、前述の通り「リアルな文脈の中で知識やスキルを応用・総合しつつ使いこなすことを求めるような課題」のことである。パフォーマンス評価では、この課題をあたえ、評価を行う。具体的なパフォーマンス課題としては、以下のようなものがある[20]。（中学校理科）

〔メダルの識別　－実験計画書―〕
あなたは、ある日、庭でメダルやその破片のようなものが埋もれているのを発見した。これらのメダルは価値のあるものなのか、何からできているのか（銀、銀以外の金属、もしくはプラスチックか）を調べたいと考えた。３つのメダルは見かけはすべてくすんだ銀色をしており、大きさも形も違っている。まず、どのような実験をして、どのような結果が出れば、何が明らかになるのか、そして何種類の実験をどの順番でする必要があるのか示しなさい。その上で、その一つ一つの実験についての準備物や方法を示し、結果と考察を書けるようにした実験計画書を作りなさい。

本実践では、以下の課題を与えて評価を行った。

あなたは都市部の中学校２年生です。島根県出身の吉田先生から「先生のふるさとの島根県が、深刻な過疎問題で困っているので、解決策を考えてほしい」と頼まれました。島根県を含む中四国地方の９県は「過疎地域の振興を国家的な課題としてとらえ、過疎地域と都市との共生を前提として、それぞれの地域の特色を生かした持続可能な社会を形成することが重要な視点であります。」と提言しています。
そこで、あなたも都市に住む市民として過疎の問題の解決策について考え、意見文としてまとめてほしいと思います。解決策は、たくさん考えられますが、予算も限られているので、もっとも効果があると思う解決策をひとつにしぼって提案してください。

課題：島根県に向けて、島根県の過疎解決策の意見文を書いてください。

意見文を書かせるにあたって、つぎのようなテンプレートを用意した。生徒には、これを参考にさせつつ各自の「過疎についての What（何が問題か）」「Why（なぜそのような問題が起きるのか）」「How to（どうすべきか、解決策）」を記述させた。

意見文のテンプレート　例）島根県の過疎問題の場合

島根県知事さんへ

私の考える、島根県の「　人口減少　」脱出大作戦！！

私が考える島根県の課題は、人口の減少がとても激しく、生活が難しくなってしまっていることです。（“What”課題を示す）そこで、私はこの課題を解決するために、「地域通貨」の導入を提案します。（“How to”解決策＝結論をすぐ書く。）

なぜ、地域通貨を導入すると、人口減少が解決するのでしょうか。それは～～～～（解決策がなぜ効果的なのかの理由を示す“Why”①）。だからです。そもそも、なぜ人口減少しているのかというと（過疎問題がなぜ起きているのかの“Why”②）。

（“Why”は２種類あるが、なぜ解決策が効果的なのか説明するときに、そもそも、なぜ過疎問題が起きているのかも含めて理由として書くと読みやすい。）

しかし、地域通貨には問題点もあります。それは～～～。しかし、～～～することで克服します。（マイナス面もありますが、それ以上の効果があります。…など）

（＋解決策にはプラス面だけでなくマイナス面もあるので、その点にも述べる）

地域通貨を導入した近くの北海道栗山町では、人口減少率が10%減少しました。

（＋実際に実施して効果を出している例を紹介するなど、説得力を高める）

以上のことから、地域通貨は、島根県の「人口減少ワースト１」を脱出するために、効果的な対策だと考えます。（最後に、もう一度みじかく結論を書く。）

（３）ルーブリック

ルーブリックとは、前述のパフォーマンス課題で生みだされた生徒の多様な作品を採点する指針、評価基準のことである。一般に、成功の度合いを示す数段階の「尺度（スケール）」と、尺度に示された評点に対応するパフォーマンスの特徴を示した「記述語」から構成される。ルーブリックはあらかじめ固定的に設定しておくものではなく、パフォーマンス課題の作品をもとに協議して作成（もしくは再構成）するものである。本研究では、連携協力校の社会科教員と協議してルーブリックを作成した。

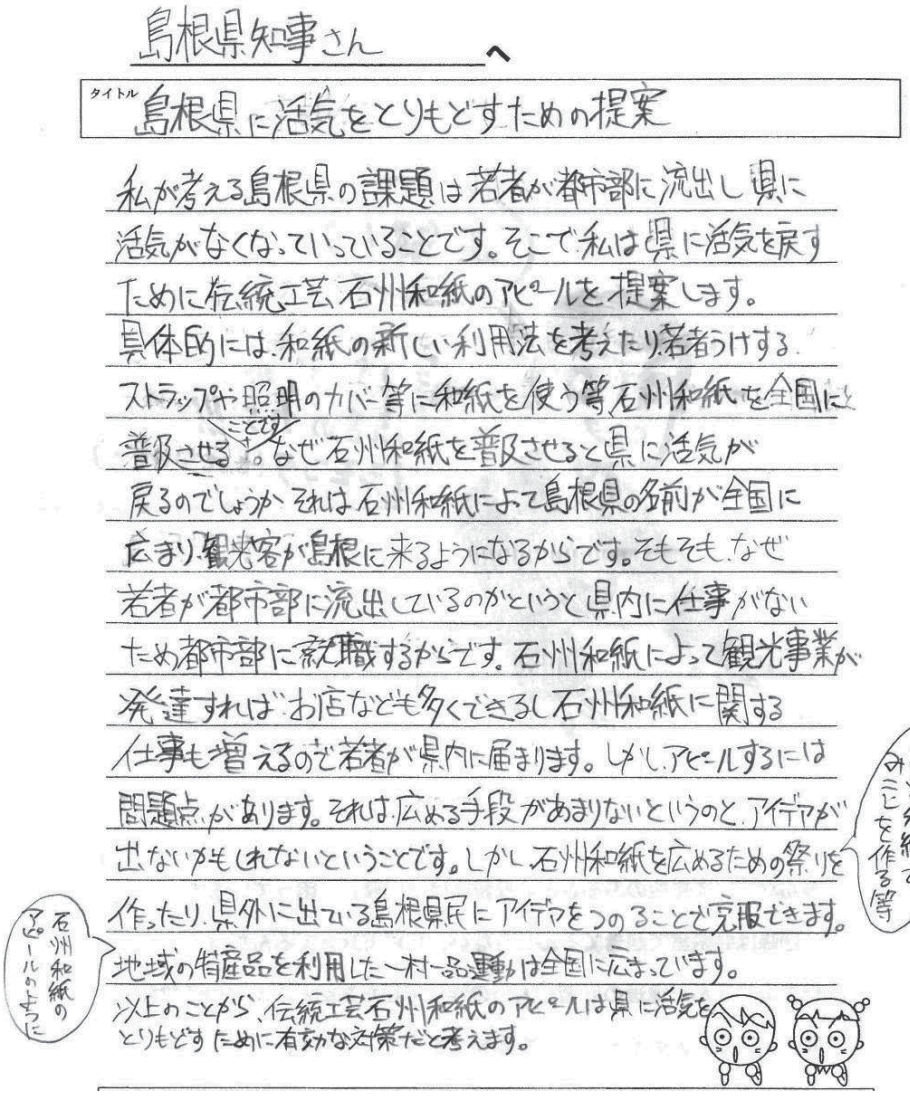
（４）評価の実際

単元実施後の冬季休業中に、連携協力校の社会科教員（以下、K。50 代男性、大学時代の専門は日本近現代史）と、筆者（20 代男性、大学時代の専門は日本古代史）で協議して生徒の作品を評価し、ルーブリックを作成した。

各自１～５点で採点し、評価が分かれたものは協議して得点を決めた。そして、得点ごとに特徴を抽出し、ルーブリックの指標として記述していった。

以下、生徒の作品例とそれに対する評価である。

作品例１



島根県知事さん へ

タイトル 島根県に活気をとりもどすための提案

私が考える島根県の課題は若者が都市部に流出し県に活気がなくなっていっていることです。そこで私は県に活気を戻すために伝統工芸石州和紙のアピールを提案します。具体的には和紙の新しい利用法を考えたり若者うけするストラップや照明のカバー等に和紙を使う等石州和紙を全国に普及させることです。なぜ石州和紙を普及させると県に活気が戻るのでしょうかそれは石州和紙によって島根県の名前が全国に広まり観光客が島根に来るようになるからです。そもそも、なぜ若者が都市部に流出しているのかというと県内に仕事がないため都市部に就職するからです。石州和紙によって観光事業が発達すればお店なども多くできるし石州和紙に関する仕事も増えるので若者が県内に届まります。しかしアピールするには問題点があります。それは広める手段があまりないというのとアイデアが出ないかもしれないということです。しかし石州和紙を広めるための祭りを作ったり県外に出ている島根県民にアイデアをつのることで克服できます。地域の特産品を利用した一村一品運動は全国に広まっています。以上のことから、伝統工芸石州和紙のアピールは県に活気をとりもどすために有効な対策だと考えます。

作品例１は、Ｋが４、筆者が５と採点し、協議を行い最終的には 4.5 とした。協議内容は以下のようだった。

「Ｋ：和紙から観光というのは結びつけるのは無茶でしょう。」

「筆者：たしかにそれで人口が増えるかというと」

「Ｋ：増えないよ。買う人が増えたって、そこまで人口は増えないよ。着眼点は、よく勉強しているし、もってきているけど」

「筆者：具体性や現実性のところで、すこし欠けるかな、というところしょうか」

「仕事がない」ために都市部に人口流出してしまうという過疎化の社会的要因を説明していることで高得点をつけたが、提案している対策が雇用を実際に生み出すのか、その現実性・妥当性の点で難があり、減点し 4.5 となった。

作品例２

吉田先生 へ

タイトル
島根の過疎脱出大作戦！

私が考える島根県の課題は、過疎がすすみ、県全体に活気がなくなっていることだと思います。だから私は、町（県）おこしのために、集落支援員制度を利用して、お祭りのような、伝統になる行事を開催するということをていあんします。

島根は、99分、道路等の整備も都心にくらべて遅れていて交通の面で、とても不便だと思います。でも、それは逆に自然がたくさん残っているという長所でもあります。ということは、畑もたくさんあり、野菜や果物穀物等、都心では出来ない産業をしているということになります。この野菜等の収穫祭をかねて、おみこしや、3店など、盛んにでているお祭りをすれば、町に活気がつくと思います。

でも、これには問題が123あります。1つ目、過疎地域は、お年寄りの方が多くて手不足になってしまうと予想されることです。そこで、"集落支援員制度"を用いて若い人にも手伝ってもらい、にぎやかなお祭りにできると思います。2つ目は、交通の面です。もし県外から来たお客さんであれば、バス、電車等交通を発達させないと、不便です。でも、例えば、祭の日のみ、無料の送迎バスを近くの大きな駅と祭会場までむすぶというのはどうでしょうか。これにより、あまり整備されていなくても、渋滞せずスムーズに会場へいくことが可能になると思います。また、環境にもやさしくeco にもなります。

以上のことから、集落支援員制度を利用して祭のような行事を開催するということは、島根の過疎から脱出するために、効果的な対策だと思います。

作品例２は、３点と採点した。一見、十分な説明しているようにも見えるが、そもそもなぜ人口減少がおきているのかの社会的要因（就職による流出など）の説明はなく、対策の説明が中心となっている。要因を踏まえての対策という点が不十分と判断し、このような得点とした。

以上のような協議を踏まえ、作成したルーブリックはつぎのようになった。

評価の階段（ルーブリック）自分の作品は何段目かな？

尺度	記述語
5 すばらしい	島根県の過疎の現状をもとに、過疎の根本的な原因に対してWhat（課題）に設定できている。そして、Why（課題の要因）について、「なぜ課題（過疎）が起きているのか」「なぜこの解決策が有効なのか」の２つの理由が明確に書かれている。その上で、他地域の事例を参考にするなど、現実性や具体性のある政策的なHow to（解決策）を提案することができている。パフォーマンス課題の問題文に正対している（あたえられた課題と作品の内容が一貫している）。論理展開に矛盾がなく、根拠を明示し、主張に説得力がある。
4 よい	島根県の過疎の現状をもとに、その要因を踏まえWhat（課題）を設定できている。そして、Why（課題の要因）について、「なぜ課題（過疎）が起きているのか」「なぜこの解決策が有効なのか」などの理由が明確に書かれている。その上で政策的なHow to（解決策）を提案することができている。パフォーマンス課題の問題文に正対し（あたえられた課題と作品の内容が一貫している）、根拠を示して主張を述べている。
3 合格	島根県の過疎の現状をもとにWhat（課題）を設定できている。そして、Why（課題の要因）について、「なぜ課題（過疎）が起きているのか」「なぜこの解決策が有効なのか」などの理由が書かれている。その上でHow to（解決策）を提案することができている。パフォーマンス課題の問題文に正対し（あたえられた課題と作品の内容が一貫している）、意見を述べている。
2 もう一歩	島根県の過疎の現状をもとにWhat（課題）を設定できている。そして、過疎問題のHow to（解決策）を提案することができている。もしくは、Why（課題の要因）について、過疎問題がおきる理由が書かれている。課題と提案が一貫しておらず、課題に正対することができていない。論理展開に矛盾を含んでおり、根拠が十分ではなく説得力がやや弱いが、意見を述べている。（課題と提案で理由や根拠のないものは２、未完成の作品も２）
1 かなりの 努力が必要	島根県の過疎の現状に対して、What（課題）の設定、Why（課題の要因）についての考察、How to（解決策）の提案のいずれか一つを述べることができている。根拠についての記述が不十分、もしくは見当たらない。課題に正対することができておらず、論理展開に矛盾があり、説得力が弱い。（未完成かつ提案のみで課題設定や根拠が述べられていないものが１）
0 白紙・未提出	課題を提出することができていない。（宿題は、ださないよりも出すように心がける。提出した方が、まったく提出しないよりも確実に高評価を得ることを意識する。）

「正対していない」「一貫性がない」→「今日、朝ご飯なんだった？」「夕ご飯はカレーだったよ」
「具体性がない」→「産業をおこすのがいいと思います。」（どんな産業をおこすの？）
「現実性がない」→「１００兆円を島根県に寄付する」（いま国は借金が多くて、難しい…。）

３．研究の成果

（１）自由記述の分析（質的分析）

まずは自由記述の質的な分析についてである。表１の質問⑥を見ると、パフォーマンス評価を通して「社会科は暗記すればいいと思っていたけど、暗記しただけでは、実さいに使って説明できないと思うようになった」(06)、「変わった。自分の考えを言うだけでなく、それを説明する事をしたから」（14）「変わった。社会は暗記だけじゃないと思った」（28）と学習観が「覚える」から「説明する」「考える」と変化していることが読み取れる。パフォーマンス評価の感想（質問⑤）では「自分の意見をもつことや書くことは難しいと思った」（17）のように困難さを示す意見と「とてもおもしろいと思う」（19）のように親密さを示す意見の双方があり、田中耕治氏が指摘する「真正性」のもつ「親密さ」と「困難さ」の二つの側面[21]と重なる。もちろん、パフォーマンス評価を通して変化しなかったという意見（02 など）もあった。これについては、文章を書くことへの苦手意識も要因にあると考えられ、文章を書く手助けを充実したり、パフォーマンス評価を定期的に行ったりすることで苦手意識を克服させるなどの対応が求められるだろう。

（２）質問紙調査の分析（量的分析）

量的分析からは、パフォーマンス評価の前後で学習方法が「量より方法」の学習観に変化していることが読み取れる。市川尺度の事前と事後で平均値の差があるかどうかを確認（対応のある２群のｔ検定）したところ、「テストの成績が悪かった時、勉強の量よりも方法を見直してみる」の項目が５％水準で有意差がみられた（$t(117)=2.388$，$p<0.05$）。

では、具体的にどのような方法をとるようになるのか。鈴木尺度でも平均値の差を検定したところ、精緻化方略（イメージや既知の知識を加えて関係づける学習方略）、学習状況の把握（学習をメタ認知する力）、統制感が１％水準（それぞれ $t(117)=3.560$、2.853、5.278，$p<0.01$）、体制化方略（学習材料の各要素を全体として相互に関連を持つようにまとまりを作る学習方略）が５％水準で有意差が見られた（$t(117)=2.183$，$p<0.05$）。一方、「努力」の項目が、１％水準の有意差で減少が見られた（$t(117)=-3.105$，$p<0.01$）。

これらの結果から、パフォーマンス評価を通して、子どもたちは「量より方法」重視の学習観に変化し、学習状況を把握しながら、内容をイメージしたり既有の知識と関連づけたりしながら学習をする方略を用いるようになることがわかる。

４．成果の活用法

以上の研究成果から、社会科においてパフォーマンス評価を積極的に取り入れることを提案したい。具体的には「意見文型パフォーマンス評価」の提案である。社会科のパフォーマンス評価の先行実践では「新聞づくり」が行われているが[22]、新聞づくりは授業時数が多く必要で、紙面の表現力なども評価対象にするとルーブリックの作成も難しい。その点、「意見文型」は作成にかかる時間は１時間と短く、ある一定の形式があることから内容に対象をしぼったルーブリックの作成ができる。中学生に意見文の課題は難しいという点も、意見文の型（テンプレート）を用意することで克服できる。イギリスにおいても、論説文の型を提示しているという[23]。もちろん、型は意見文に慣れるためのものであり、型を固定的にとらえることがないように留意して提示する必要がある。

5．主要参考文献（脚注）

1　近年、教育心理学においてもパフォーマンス評価が注目されてきているが、これによる学習者の変化に着目した研究は十分に行われていない。「パフォーマンス課題をはじめとした「真正の評価」という考え方に基づく評価を行うことが、学習者に対してどのような変容をうながすのかといったことも十分にあきらかにされているとはいえない。」山森光陽「教育評価と授業」高垣マユミ編著『授業デザインの最前線Ⅱ』北大路書房、2010 年．（p. 196）社会科の評価研究においても、同様である。

2　西岡加名恵編著『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』明治図書、2008 年．p. 14

3　社会科メタファーのほかに、社会科のイメージや学習方法に関する自由記述のアンケートを行ったが、そこで「覚える」教科という認識のある生徒は、119 名中 50 名（42%）いた。

4　“はい”が 40.1%、“どちらかといえば「はい」”が 34.1%、“どちらかといえば「いいえ」”が 20.5%、“いいえ”が 5.1%だった。この質問は単元後の調査で付け加えた項目で、変化を確認できていない。

5　大森正「社会科の歴史」大森正・谷敷正光・森茂岳雄・大友秀明『社会科教育研究』梓出版社、1992 年.

6　草原和博「社会科学教育としての社会科の成立理由－社会科学力観の再検討－」『社会科研究』第 56 号、2002 年．豊嶌啓司「社会科の学力と評価」原田智仁編著『社会科教育のフロンティア』保育出版社、2010 年．社会科の学力をめぐっては、「理解」型、「説明」型、「問題解決」型、「意思決定」型など、様々な見解が出されており「社会科の学力を一様に定義することは難題である」（豊嶌前掲書）。本研究では、（今回の）パフォーマンス評価で評価可能な範囲として「説明」ないしは「意思決定」（判断）に限定して論じることとしたい。もちろん、「説明」や「意思決定」にとどまらず関心や意欲といった情意面、実社会への参加・行動面も学力に含めるべきという意見に反対というわけではないが、それをパフォーマンス評価の対象とすると態度主義、形式主義になることが懸念される。

7　西林克彦『間違いだらけの学習論』新曜社、1994 年．p. 150

8　もちろん、知識の暗記が無意味というわけではない。これまでの社会科実践の中には、「暗記」が「意欲」に作用する可能性を示したものもある。加藤文三『すべての生徒が一〇〇点を』地歴社、1976 年.

9　安井俊夫『子どもが動く社会科』地歴社、1982 年．などを参照。

10　加藤公明『日本史討論授業のすすめ方』日本書籍、2000 年．などを参照。

11　中内敏夫氏は、授業は①教育目標、②教材・教具、③教授行為・学習形態、④教育評価、の要素からなるとする。ここでいう「方法」とは③にあたる。『中内敏夫著作集』第Ⅰ巻 藤原書店、1998 年.

12　「授業はでは様々な創意工夫が試みられ、体験への配慮やディベートなどの方法も多見されるようになったものの、終末部分のテスト場面は旧態依然としている。この傾向は、小→中→高と学校段階が上がるに連れて、より顕著となる。そこから社会科暗記もの観が形成され定着している」小池俊夫「社会科とテスト」日本社会科教育学会編『社会科教育事典』ぎょうせい、2000 年．p. 278

13　村山航「テスト形式が学習方略に与える影響」『教育心理学研究』第 51 巻第 1 号、2003

年．この研究は、中学校２年生を対象に、テスト形式（空所補充型テストと記述式テスト）が学習方略などに与える影響について検討している。授業内容は歴史で、空所補充型は空所に適切な語句（人名、事件名、年号など）を記入することが要求され、記述式ではトピック（「ドイツのインフレーションが起きた理由とその結果」「ヴェルサイユ条約」など）について説明することが要求されるという。「今後の展望」として、５日間での実践・検証という状況、動機づけの高い被験者の可能性があることから「通常の教室場面を用いて現象の再現性などを検討する必要があるだろう」と述べられている。本研究は、村山氏の研究との類似性が高いが、通常の学校現場での実践・検証という点と、記述式テストではなくパフォーマンス評価という点で異なる。

14　文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』ぎょうせい、2008 年．pp. 71-72

15　西岡、前掲書　p. 14

16　市川伸一編著『認知カウンセリングから見た 学習方法の相談と指導』ブレーン出版、1998 年．p. 186

17　この質問紙は、鈴木氏がスキナーの開発した学習意欲を測定する尺度ＣＡMI を参考に、教科教育用として開発ものである。もともとは理科用に開発されているが、言葉をかえて他教科でも活用可能としている。鈴木氏は「自己効力測定尺度」「社会的関係性測定尺度」「メタ認知尺度」「学習方略尺度」の四つの尺度を開発しているが、研究の関心と質問数の都合から「自己効力測定尺度」「メタ認知尺度」「学習方略尺度」の三つを社会科用に作成し、実施した。質問文は小学生向けにつくられており、くわえて連携協力校の国語の先生に推敲をお願いしたこともあり、連携協力校の中学生にとっても実施上の支障はなかった。鈴木誠『学ぶ意欲の処方箋』東洋館出版社、2002 年．pp. 143-169

18　『学習指導要領』「内容（３）世界と比べてみた日本（イ）人口から見た日本の地域的特色」に該当

19　鵜木毅「論文体テスト」森分孝治・片上宗二『社会科　重要用語 300 の基礎知識』明治図書、2000 年．これまでの社会科のレポート評価は評価基準が不明確で主観的になるという課題があった。

20　西岡、前掲書より引用。

21　「評価における「真正性」とはむしろ子どもたちにとっての「困難さ」であると指摘するものである。たしかに実生活を映し出す評価問題は子どもたちにとっても「親密さ」があり、チャレンジしようとする意欲を喚起する。しかしながら、それを解くためには総合的な深い理解力が要求されるのである。この「真正性」に込められたアンビバレントな側面―「親密さ」と「困難さ」―に自覚的であることが、「真正の評価」の本質を見誤らないために肝要となる。」田中耕治『教育評価』岩波書店、2008 年．P. 74

22　出嶌和茂「民主主義について考える－２年社会科『大正デモクラシー』－」西岡 前掲書所収

23　鋒山泰弘「英国における歴史教育の目標と評価方法」『教育目標・評価学会紀要』第 15 号、2005 年．